

別記第1号様式(第7関係)

## 会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第1回豊島区観光振興プラン策定委員会
事務局(担当課)		文化商工部文化観光課
開催日時		平成30年 2月6日(火) 13時~15時
開催場所		区役所本庁舎5階 509・510会議室
議 題		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 委嘱状交付</li> <li>3. 区長挨拶</li> <li>4. 委員自己紹介</li> <li>5. 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 会長の指名・諮問について</li> <li>(2) 委員会の運営について</li> <li>(3) 豊島区の観光に関する調査結果及び観光振興プランの方向性について</li> <li>(4) その他・今後のスケジュール</li> </ol> </li> </ol>
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開      傍聴人数0人
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
出席者	委 員	安島委員、羽生委員、佐藤委員、田嶋委員、平井委員、坂爪委員 小寺委員、上野委員、森永委員、河畑委員、杉江委員、高橋委員 小澤委員  欠席者 近江委員、木崎委員
	そ の 他	東京都産業労働局観光部振興課長、公益財団法人としま未来文化財団事務局長、企画課長、生活産業課長、文化デザイン課長 東京オリンピック・パラリンピック連携担当課長、都市計画課長 国際アート・カルチャー都市推進担当課長
	事 務 局	文化観光課長、文化観光課職員5名

## 審 議 経 過

文化観光課長：これより第1回豊島区観光振興プラン策定委員会を開催します。本日、お忙しいなかご出席いただき誠にありがとうございます。第1回目の会議ですので、会長を選出するまでの間、私の方で進めさせていただきます。また、本委員会の議事録を作成いたしますので、会議内容を録音させていただきます。ご了承ください。

(委嘱状の交付)

(区長あいさつ)

(委員自己紹介・オブザーバー・事務局紹介)

文化観光課長：資料1の要綱第5条に基づき会長の互選をお願いいたします。

(会長選任、了承)

(区長から会長へ諮問書を渡す)

(区長別公務のため、退席)

会長：会長を務めます。前の観光振興プランの際も座長を務めさせていただきました。前回のプランの際は、東京でのオリンピック・パラリンピック開催が決まっておりましたので、その部分があいまいになっておりました。その後、東京開催が決まり、豊島区でも区庁舎の移転や再開発と色々な動きがありました。池袋は、劇場都市としてどんどん変わっていています。もう1つ大きく変わった点としてインバウンドが挙げられます。当時は、1,000万人だった訪日外国人旅行者が毎年どんどん伸びていき、2,800万人(昨年)になりました。国は、オリンピックまでに4,000万人を目標に掲げています。豊島区は、東アジア文化都市開催も控え、大きく変わっていかうとしています。この観光振興プランでは、そういうものを資源として活かして、更に観光都市としてどのように発展させていくのかに取り組んでいきたいと考えていますので、皆さんのお知恵をお借りしていいプランを作っていきたいと思います。

文化観光課長：ここからは、進行を会長にお願いできればと思います。副会長の指名の方からお願いします。

会長：副会長の指名を行います。要綱の第5条には「副会長は会長が指名する。」と規定されております。

(副会長2名の指名・了承)

会長：次に、会議の運営方法についてですが、この会議及び会議録の公開についてお諮りいたします。区民の皆さんにも知ってもらうため、会議や会議録を公開したいと思います。区では審議会等の会議について、公開を原則としており、これまでの会議及び会議録についても、公開をしておりましたが、みなさん、いかがでしょうか。

(了承)

会長：公開とします。なお、会議録の公開については、個人が特定されないように事務局に配慮をお願いします。次に傍聴についてですが、希望者は当日会場で申し

込みをして頂き、傍聴者は「傍聴のみで発言はできない」、ということでいかがでしょうか。

(了承)

会長：本日は傍聴の方はいらっしゃいますか。

事務局：0名です。

会長：次に、ワーキンググループ（以下「WG」という。）の設置についてです。資料3をご覧ください。観光振興プランの策定におきましては、本日の委員会を全体会といたしますと、全体会とは別に、WGを設置いたしまして、調査、プラン素案の検討を行い、全体会の中で報告します。その内容を含めて全体会の中で十分に検討を進めていきたいと思えます。WGを、策定委員会に提案を行う会議体として設置するという形でいかがでしょうか。

(了承)

(WGリーダーの指名、了承) WGリーダー→羽生委員

会長：WGの招集及び運営につきましてはリーダーに一任いたします。また、委員の皆様よりWGにご参加いただける方は、後程事務局へご連絡ください。

会議の運営については、以上になります。

次は、豊島区の観光に関する調査結果と観光振興プランの方向性についてです。

まず観光に関するコンサルタントによる調査結果について事務局より説明をお願いします。

事務局：1月16日の観光庁長官会見要旨とあわせ、観光に関する調査結果についてご報告いたします。今年度、豊島区観光振興プラン策定事前調査を実施いたしました。お手元に配布しております（資料5）、（資料6）をご覧ください。

資料5及び資料6について説明。

夜間に関する区の取組みにつきましては、国際アート・カルチャー都市推進担当課長よりご説明させていただきます。

国際アート・カルチャー都市推進担当課長：豊島区アフター・ザ・シアターの展開について、ご報告させていただきます。区長からもお話しがありました通り、豊島区の街が大きく変わっています。様々なコンテンツが来ており、近年で随分と街の賑わいが変わってきております。私が所管している特命大使も1,360名もの方になってもらっています。住民・行政・地域の方々と一緒に豊島区のアート・カルチャー構想の実現を目指して進んでいるというところであります。実現戦略の「アートカルチャー鑑賞後のサードプレイスの実現」という言葉がございます。まさにこれがアフター・ザ・シアターに繋がるお話しでございます。舞台芸術や映画を楽しんだ後の20時～21時位に安全・安心にその余韻を楽しむ場所を考えていけないかというのが大きな主旨であります。私共が考えているのは、この街の安全・安心をきちっと掴みながら、アフター・ザ・シアターの名前の通り、劇場や映画を観た後に飲食やお買い物ができる場所として、どういうものを提供でき

るかを行政や地域の方が一体となって考えていければという事で、有識者の方をお呼びしての懇談や区長も参加してのワークショップを行いました。アフター・ザ・シアターの目的は、セーフコミュニティを都内で最初に取得した強みを活かしながら、豊島区ならではの安全・安心に観劇後の余韻を楽しめる場を実現し、街の魅力をより一層高め、訪れる人からも選ばれる国際都市を目指す、住んでいる方の誇りを持てる街を目指すということです。国や都では、ナイトタイムエコノミーの議論が活発になっております

観光庁の皆様も豊島区の強み(安全・安心、女性・高齢者に優しい)を活かしたアフター・ザ・シアターに非常に興味を持っています。私からは、以上になります。

委員：時間が無い中での説明を事務局が行いましたので、雑駁な説明をさせていただきました。今年の1月16日に観光庁が訪日外国人の速報値を出しました。内容としましては、ナイトタイムエコノミーの活性化の為に、官民連携のひつ業がある。観光庁長官もナイトタイムエコノミーを国を挙げてやっていく必要があるとの認識を示しました。資料5-1の資料は、こんな考え方が出来るのではないのでしょうかという資料で、いかにも行政が作った資料であります。皆さんにご覧いただきたいのは、A3の2枚。上段は、豊島区における文化政策を示したソフト面、下段は、まちづくりのハード面の資料になっており、全体の流れが分かりやすいのかなと思います。財政状況が非常に逼迫していたのですが、区民の皆さんと文化推進をするということで、平成21年2月に文化庁長官表彰を取り、平成24年には、セーフコミュニティの国際認証を取得しました。平成26年は、豊島区にとって大きな年になった。このような取組みをしていたにも関わらず、日本創生会議より豊島区は、消滅するという衝撃的な発表がありました。それを受けながら、日本の推進力になろうという事で、女性に優しい街、高齢者に優しい街、日本を引っ張っていく自治体を目指そうという志を高く持ちました。消滅可能性都市の指摘を受けて、豊島区が取り組んだ未来戦略が国際アート・カルチャー都市だったわけでありませう。

豊島区が積極的に誘致したわけではないのですが、東京アニメアワードフェスティバル、ジャパンコンテンツショーケース、ラ・フォル・ジュルネTOKYO、パラアート東京、アートオリンピア、こういったものが豊島区で開催したいと申し出をいただいた。更にオリンピック・パラリンピックの機運醸成の為に、東アジア文化都市の開催を獲得しようとして乗り出した。まちづくりの面としましては、緊急整備地域の指定、国家戦略特区の指定、アジア・ヘッドクウォーター特区の指定、これまで東京の東側、西側でいうと渋谷、新宿で止まっていたが、平成27年以降国の特区指定を受けられるようになってきた。将来を見据えた都市構想として4つの公園、車両のデザインで高名な水戸岡先生の赤い電気バスが企画されている。東アジア文化都市、Hareza 池袋のオープン、西口公園の野外劇場、2020年3月には、トキワ荘の復元、造幣局跡地の防災公園、東京国際大学の誘致など

がある。池袋周辺のまちづくりの動向という資料を見ていただくと、Hareza の部分には、新ホール、新区民センターが 2019 年にグランドオープンし、全体としては、2020 年にグランドオープンする。隣のシネコンは、2019 年にオープンする。様々な 2019 年、2020 年のまちづくりの動向を記載している。しかし、2019 年、20 年は到達点では無く、むしろ、これらを契機として更にまちづくりが進行していくことになる。皆さんに検討していただく、観光振興プランの計画期間の中に盛り沢山のものがあります。これらのソフト・ハードを活かして計画期間内の国内から訪れる方やインバウンドのお客様を呼べる計画にするかというのが、今回、我々に課された課題であります。

会長：2019 年の東アジア文化都市、2020 年度東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、豊島区の観光を取り巻く現状は、日々変化しています。できる限り、現状のニーズをふまえた新たな施策も新プランへ盛り込んでいきたいと思えます。

ここで、委員の皆様より、全体的な課題、今後のプラン方向性について、それぞれのお立場で感じたことなどをお話しいただきたいと思えます。

委員：資料のご準備ありがとうございました。区長のご説明から始まって色々な情報が盛り沢山な内容でしたので、この場で全部消化して方向性をご提案というのは厳しいので、少し抽象的なあるいは日常感じていることを簡単に申し上げたいと思えます。

今、ご説明いただいた事や区長のお話しを合わせて考えると池袋を中心に豊島区の中で様々なプロジェクトが同時並行で動いていて、実現は目の前に迫っている中で観光振興プランが何をしないといけないのか。資料の中に観光振興プランの位置付けは書いてありますが、観光振興プランの狙いが何かと考えた時に来街者がよりこの街をどう楽しめば良いかがテーマになると考えると、豊島区が色々な所で一斉に動いている中でこのプランが担わなければならない役割を皆さんでもう少し議論しなければならないかなと思う。観光部署が中心となってプランを作成する時は、言い方が悪いが他の部署の残り物的なものを担うことが多く、ありがちなメニューが並んでしまう。これから数年間のダイナミックな動きの中で観光が何を指すのか課題と目標を根本から皆さんと議論が出来たらなと思えます。ご用意いただいた資料の現状と課題には、今、説明いただいた要素が何も入っていないんですね。これだと残り物を探して作成していく恐れがあります。池袋が議論の中心になるのかなと感じていたので、事前にゼミ生に池袋のイメージや池袋がどうすれば良くなるかのワークを行った。今でさえ、サンシャイン 3,300 万人、1 日あたり 10 万人来ている。今後、東口の開発がすすむことで来街者が増加し、より混雑し、住んでいる立場からすると歩きにくくなる。今後 2~3 年、人は増えていくはずなので、観光振興プランに記載できる内容は、わずかかもしれないが、観光が中心となって様々な所と連携しながらどう解決に導くかを議論できればいいかなと個人的には思っております。池袋以外のエリア(雑司が谷、巢鴨、

目白、学習院等)とどう関わって、どう連携していくかの議論も出来れば。また、区外にも観光の動きが広がっていくという前提で区外(隣接地)との連携の議論ができればと思います。

インバウンドの話が多かったが、観光庁の発表の訪日外国人観光消費額の直近は、4兆円。全体の観光消費額の2割に達していない。現時点でも8割以上は、日本人による観光消費。私自身としては、日本人が主流の消費行動をとることを前提に考えていきたい。

会長：大事な指摘をいただいた。観光振興プランが何をするかを考えていきたい。

委員：ホテルは、日本人より海外からのお客様を伸ばさないと生きていく道が無いらうなと考えている。

毎年、計画を立てて、海外出張に出している。東京都の職員とロシアに観光プロモーションに行かせた。昨年、インドネシアにセールスに行きましたが、インドネシアの旅行会社いわく、日本への旅行費用は、高い。今は、東南アジアから日本に来るよりもヨーロッパに行く方が安い。韓国は、日本の半額で行ける。そういった中で我々ホテルは、何とか戦ってご送客いただいている。海外のお客様を連れてこないとやっていけない。大きい目で見ると日本は、飛行機1機の着陸代金が高いので、外国からお客様を呼んでくる状況としては、実はあまり良くない。海外から見ると、日本は魅力的な国であることは間違いない。ヨーロッパに行くより高いが日本に来てくれている。高いお金を払ってきてくれる方に日本に来て良かったと思ってもらわないとリピートしてくれない。これを現実の問題として捉えていただいて、楽しい旅の思い出を持ち帰ってもらい、その国で日本の楽しさを拡散していただく。高いお金を払って来ていただいていることを理解いただけてないんだろうなと感じている。

会長：日本旅行は、高いんですね。

委員：区民でも知らないことが起こっているんだなと感じた。こういう言い方をするとあれだが、魅力的な箱が出来ているんだなと感じている。私たちの会社は、西口にある。東口的发展ぶりを羨ましく思っていたが、池袋地区全体で盛り上げていくという意味では、我々の商売とも結びつくので大きな目で見ていきたいというのが、我社の方針でもある。新宿や銀座や渋谷、渋谷再開発が凄いがこれらの街と対峙していかないと国内から来られる方やお住まいになりたいという方、インバウンドも大事だが日本の方々に選んでもらわないといけない。池袋ならではの特徴をもっと出していかないといけないと感じた。インバウンドも大事な商売相手であり、インバウンドの方々が何故池袋に来るかを考えないといけない。インバウンドの方々も色々な所(アジア、欧米)から来ているので、プロモーションや販促を行う際に誰に対して動機付けして行うかをしっかり考えていかないといけないかなと感じた。

会長：ありがとうございます。

委員：同じく百貨店において、インバウンドのお客様着実に増えている。アリペイ、ウィーチャットペイが出来るようになって大変喜ばれた。レジの入れ替えを行っている。販売員がレジ作業でお客様の目の前からいなくなってしまう。それが非常に嫌というのがありますので、今入れ替えているレジは目の前で決済ができるものになっている。ミルクの哺乳瓶の飲み口が売れている。何故売れているかという、日本の物が物凄く信頼されているからです。赤ちゃんが口にするものであり、品質が保証されている日本で買おうということで売れている。日本を信用して来てくれる方を裏切らないようにしないといけない。当社、20年に向けての目標の中で全てのお客様が来ても過ごしやすいようにということを掲げている。豊島区が子育てしやすい街1位になったが、非常にベビーカーを押しているお客様が多い。入口でベビーカーや車いすの貸し出しをしている。非常に利用者が多いので準備しないといけない。2020年に向けて街全体でベビーカーや車いすの提供をやると海外の方に喜ばれるのではと思いました。

委員：私共は、複合施設をやっております。各種イベントを開催しているが、苦勞している点としてイベント情報をどのように伝えるか。個別に伝えるか。全体に伝えるか。本日の資料を見るとハード面・ソフト面が進行していき、凄いなと思いました。どういう人にどういう形で伝えるかが大事になってくるのかと思っています。

委員：先程、役所のつまらない書類という話をしたが、悪く言うつもりはありません。思っている事を五月雨式に言うと、2014年の前回プランの作成時に池袋がこうなるとは想像出来なかった。オリパラ後の2023年の次回改定も読みにくい。前回の観光振興推進委員会でも次回改定は、もっとアグレッシブなものにしようという意見が出た。例えば、ターゲットややることを明確にしていく。本日の資料を見る限りでは、ターゲットも絞れていないし、何をやりたいかも分からない。観光は、街の商工の骨子。アートカルチャーという骨子があるなら、それにどう乗るかを考えるべきだと考えている。事務局資料で気になった点として認知やファンを作るというKPIに載せにくい分りにくい資料になってしまっている。認知するにしても地名なのかアートカルチャーを売りたいかによってやるべきことが違って来る。私自身、青森県の手伝いを7~8年しているが、青森県の認知が伸びているということが資料の6に載っている。ここまで来るのに5~7年掛かっている。県として取組むことと1自治体の豊島区が取組むことは、違って来る。認知を目的にするのか、ファンを作って消費額増のどちらを目指すかを議論をしていきたい。それとターゲットを絞った対策が取れないという事ですが、人が多いので韓国や中国が出てくるが、本当に観劇を含めたナイトタイムエコノミーで韓国、中国が消費してくれるのか等、色々調べる必要がある。どういうストーリーを作っていくのが非常に大事。それが国としてのターゲットなのか、認知を目的にするのか、芸術鑑賞、舞台鑑賞に興味がある人を集めるのか。5年後の改定に向け

て、バトンタッチを出来るものを作る必要があるのかなと思う。個人的な意見としては、地名では集客できないと考えている。報告書のための報告書にならないように、WGなのかどうなのかだがすすめていきたい。

委員：先程は、池袋駅の心配をしていただきありがとうございます。前年度乗車人員1日当たり55万9,200人ということで、1年間で1日当たり9,000人近く増えており、これは、高野区長の打ってきた施策のおかげかなと思っています。これで2019年、2020年を迎えた時に駅がもつのかなというのが私の実際の感想。本社にも池袋の現状の報告を行った。池袋駅は、改良工事出来ない。何とかしないと今後古い駅のままになってしまう。乗車人数は、新宿に次いで2位。会社の期待も大きいですが、法律が立ちはだかっているのも、如何ともしがたいのが現状です。弊社の収益構造は、鉄道で言えば、半分がビジネス、半分が観光になっております。半分は観光のお客様。通勤・通学のお客様は、少子高齢化で減っていくので、会社としても観光を大事にしていこうという方針。地方から東京。東京から地方。ホームの幅を拡げたり、駅構内を広くしたりは、急には出来ないのも、10~20年後を見据えて、今後会社全体で考えていかないといけないと思います。ストラスブールの駅の制御をするプロが来たが、制御できないと言われた。色々な事で議論を進めていきたいと思います。

委員：正直言ってよく分からないというのが感想であります。最終的には、観光の方向性を出すものですよ。総論・各論がある中で池袋の観光なのか、豊島区の観光なのかを頭を巡ったが、絞って具体的な議論を皆様としていきたいと感じました。私も今回が初めてでしたので、色々な部分が自分の中でも見えておりません。もう1回いただいた資料を読みたくと思いました。

委員：池袋は、素敵な街。舞台が昔から大好きなので、舞台が出来るのがすごい嬉しい。小さい子が喜んで来てくれる舞台。大人向けも大事だが子ども向けの舞台も作って欲しい。舞台を見て思い出に残れば、池袋が好きになるはず。池袋が好きになれば、出張の際にもホテルは、池袋にしようかとなる。舞台が終わった後にお茶が飲めるのが素晴らしい。通り過ぎる駅ではなくて、ちょっと降りてお茶でも飲もうよ、舞台でも見ようよ、あそこ行こうよという池袋を願っています。

委員：きれいな資料をありがとうございます。ビックリガード上空にデッキができてビックリと思いました。私は、旅行会社出身でございまして、当時費用対効果ということをしつこく言われていた。この大きい建物にどうやってお客さんを呼べばいいかなというのを考えながら話を聞いていました。旅行会社の前にプラハ、ウィーンで働いていました。ウィーン市の観光局のアシスタントマネージャーととても仲良くしている。舞台芸術を中心としてということであれば、ウィーン市は、国立のオペラ座があり、それを目玉にして集客をしている街です。ウィーン市は、黒字なので、モデル都市をピックアップして目標にしてみるといいかなと思って話を聞いていました。



委員：箱物を作って、文化・芸術・アートを誘致するというストーリーは、分かる。目の前の目標である、東アジア文化都市、東京オリンピックがあつて、皆さん盛り上がっているなど感じる。そのテンションが20年～30年後どうなっているかがまだ想像できない。長年の歴史がある街が観光地になっているイメージがある。池袋自体のイメージが商業都市で人工的なイメージがある中で更に人工的な開発が行われている。豊島区は、ソメイヨシノ発祥の地でありますよね。そのような自然や文化が外国から魅力があるかなと思う。本当の意味の豊島区を深掘りしていきたい。

東京都産業労働局観光部振興課長：都の資料が出ているので簡単に説明させていただきます。訪都外国人旅行者数の2017年の数字は、5月頃には発表できると思うが、1,400万人位ではないかと私は考えています。日本に来て東京に来ない人が増えていて、地方が非常に魅力を作って誘客に成功していると思っています。東京に来る外国のお客様は、5割。5年前は、6割～7割だった。地方と競い合うのではなく、どう東京の魅力をみせるか。このままではいけないと私も思っています。国別行動特性調査で池袋を訪れた外国人旅行者の割合は都内で10位だが、この所、シェアを伸ばしている。国別の統計(欧米とアジア)だと統計結果が違う。欧米の1位は、渋谷。欧米の方々は、街歩きや建築物を見るのが好き。スクランブル交差点や面白い建物がある。ターゲットを絞るのであれば、豊島区としてアジアのお客様か欧米の富裕層か。私は、池袋が大好きで、なぜ好きなのかと考えると、混雑、ごちゃごちゃしているのも魅力で、これがあるから池袋と感じる。I LOVE NYというロゴは、I hate NY but I Love NYから来ている。これは、ごちゃごちゃしていて嫌なところもあるけれど、それが大好きという意味。池袋もそうだなと思っている。魅力として文化を1つに絞れるのは凄い。色々あるのが東京なので。プラス豊島区、池袋らしさをプランに取り入れてられるといいなと感じました。

会長：私も簡単に感想を1つ申し上げたいと思います。文化で街を作っていく。その中で観光振興プランは、何をするのかを考えていけないと思います。1つは、ご説明から抜けているのもあるのかなと思った。食やナイトタイムエコノミー。北口の方では、3時～4時までやっているお店ばかり。遅くまで楽しんだ後にどこに泊まるのとなった時にまともにシティホテルの役割を果たしているのは、メトロポリタンしかない状況。どこに泊まって、夜楽しむのかを考えないといけない。民泊も話題。都市観光というのは、ショッピングが1番大きなお金が動く。特に池袋は、若い女性が大好きな街のイメージ。色々なコンテンツが出てきた。どう池袋を楽しんでいくかのストーリーを作っていく。その中で抜け落ちているものを補い繋いでいくという所に、この観光振興プランの役割があるのかなと思いました。ラグジュアリービジネスは、池袋の中で可能なのかや色々な検討事項があるので、WGを通して検討していければなと思っています。色々な

ご意見をいただきましたので、これを基に議論を深めていければと思っております。

最後に事務局から今後のスケジュールについて説明をお願いします。

事務局：資料4の改定スケジュールをご覧ください。今後のスケジュールですが、策定委員会と先ほど承認をいただいたワーキンググループを交互に開催します。ワーキンググループで検討した内容を次回の策定委員会で提案し、さらに議論をしてまいります。

平成30年3月までに新観光振興プランを発行予定です。

なお、直近の予定としましては、3～4月にワーキンググループを開催し、旧プランの検証、現状把握、今後の戦略等を検討し、5月下旬頃に策定委員会を開催して提案を行います。

スケジュールのご説明は以上です。

会長：次回第2回策定委員会の日程候補日として、5/21（月）では、皆様のご都合はいかがでしょうか。

（了承）

配布資料	資料 1 : 豊島区観光振興プラン策定委員会設置要綱 資料 2 : 豊島区観光振興プラン策定委員会名簿 資料 3 : ワーキンググループ (案) 資料 4 : 改定スケジュール (案) 資料 5 : 平成 29 年豊島区観光振興プラン策定事前調査結果報告書 資料 6 : 参考資料
------	---